

「安全」「鉄道」ないがしろ

喜勢副社長「輸送・安全のスキルない」のに労組解体で新社長

JR東日本「取締役のスキルマトリックス」より

氏名	役職	輸送サービス・安全
富田哲郎	取締役会長	○
深澤祐二	代表取締役社長	○
喜勢陽一	代表取締役副社長	(なし!)
伊勢勝巳	代表取締役副社長	○
渡利千春	代表取締役副社長	○



重大事故が続発する中でも…

JR東日本ではこの間、本来なら考えられない重大事故が続発しています。

今年1月に東北新幹線で停電・感電事故が発生しました。昨年も「単線区間で上下線列車が同時進入」「内房線で作業員が感電死」「東

海道線で折れた電化柱と列車が衝突」などが立て続けに発生しました。

根本的な問題は、JRが進めてきた業務外注化であり、「IT企業化」「業務融合化」などを掲げた鉄道業務と安全、そこで働く仲間をないがしろにする施策です。この会社の姿勢を象徴するのが、「喜勢新社長」の人事です。

JR東日本の「取締役のスキルマトリックス」によれば、3人の副社長のうち「輸送サービス・安全」の項目にチェックがないのは喜勢副社長だけです。

会社は鉄道の根幹である輸送や安全の技術・経験が不足していると認める人物を社長に昇格させるといいます。それも重大事故が続発する中です。

すべて「労組対策」のため

そもそも喜勢副社長は「労働組合対策」で出世してきた人物です。「紹興酒事件」を起こしながら社長に昇格するのも「労組解体に尽力した」からです。

喜勢副社長が主導した職名廃止や業務融合化も、「職名にこだわって組合活動につながることを防ぐ」ためだと語られています。ジョブローテーションによる強制配転も含めて、職場の団結と労働組合を攻撃するための施策です。

会社が「労組対策」にここまでこだわるのは、ここに会社の攻撃を打ち破る力があるからです。鉄道業務や安全、働く者の権利も生活もないがしろにする会社のやり方は絶対に許せません。3月ダイ改・業務融合化、運輸区廃止反対、ジョブローテーション撤回の声をあげよう。